

土地分類基本調査

七尾・小口瀬戸・虻ヶ島（石川県分）

5 万 分 の 1

国 土 調 査

石 川 県

1 9 8 3

序 文

本調査地域は、能登半島の中央部に位置し、本県における加賀一能登を結ぶ重要地域であります。また、能登半島は観光地としても有名で、そうした意味においても、まさしく能登地方における文化・経済の担い手とも言える地域です。

こうした中で、郷土の限りある資源の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するため、その実態を科学的かつ総合的に把握することが、必要となってきております。

この調査は、国土調査法（昭和26年法律第180号）に基づき実施されたもので、地形、表層地質、土壌、土地利用現況の土地の自然的特性を実態調査し、県土の有効利用を図るための基礎資料としてまとめたものであります。

この調査の成果が、今後、土地利用・開発及び保全等の基礎資料として広く利用されることになれば幸いに存じます。

終りに、この調査にあたり、御指導、御尽力をいただいた関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

昭和58年3月

石川県農林水産部長

北 村 純 一

ま え が き

1. 本調査は、土地分類基本調査関係の各作業規程準則（総理府令）に基づいて作成した「石川県都道府県土地分類基本調査作業規程」により、実施したものである。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により、建設大臣の刊行した5万分の1地形図を使用したものである。
4. 調査の実施、成果の作成関係機関及び関係担当者は、下記のとおりである。

指 導 調 整	国土庁土地局国土調査課		
総 括	石川県農林水産部耕地整備課	課 長	山 本 俊 雄
		課 参 事	北 知 慎
		換地係長	田 村 岑 実
		主 事	山 本 朗
地形分類調査	金 沢 大 学 理 学 部	助 教 授	山 田 一 雄
表層地質調査	金 沢 大 学 理 学 部	教 授	紮 野 義 夫
土 壤 調 査			
農 地	石川県農業試験場	農 業 研 究 専 門 員	中 屋 滋 夫
林 地	石川県農林水産部	林 業 経 営 課 普 及 係 長	中 野 敏 夫

土地利用現況
調査

石川県農林水産部耕地整備課 主 事 山 本 朗

協 力 機 関

七尾農業改良普及所

羽咋農業改良普及所

林 業 試 験 場 技 師 三 代 千 里

技 師 千 木 容

目 次

位 置 図

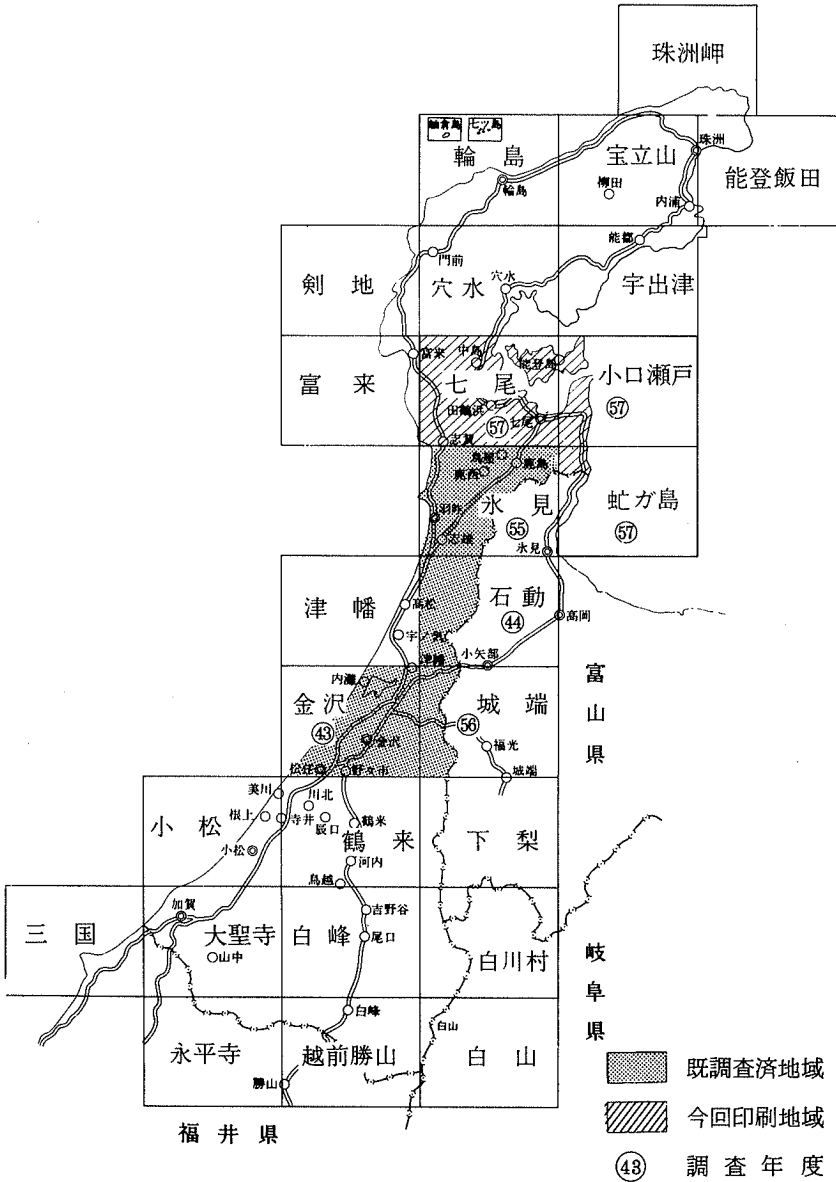
総 論

I 位置・行政区画および面積	1
II 人口および世帯数	4
III 地域の特性	6
1 自然的条件.....	6
2 社会経済的条件	8
3 就業構造	10
IV 主要産業の概要	12
1 農 業	12
2 工 業	14
3 商 業	16

各 論

I 地形分類図	19
II 表層地質図	25
III 土 壌 図	31
IV 土地利用現況図	42

位置図



總論

I 位置・行政区画および面積

1 位 置

「七尾」，「小口瀬戸」，「虻ガ島」図幅は，能登半島の中央部に位置し，「虻ガ島」図幅においては，富山県の北西部を含んでおり，東経 $136^{\circ} 45' \sim 137^{\circ} 15'$ ，北緯 $36^{\circ} 50' \sim 37^{\circ} 10'$ の範囲である。

本調査は，図幅のうち石川県の部分を対象とした。

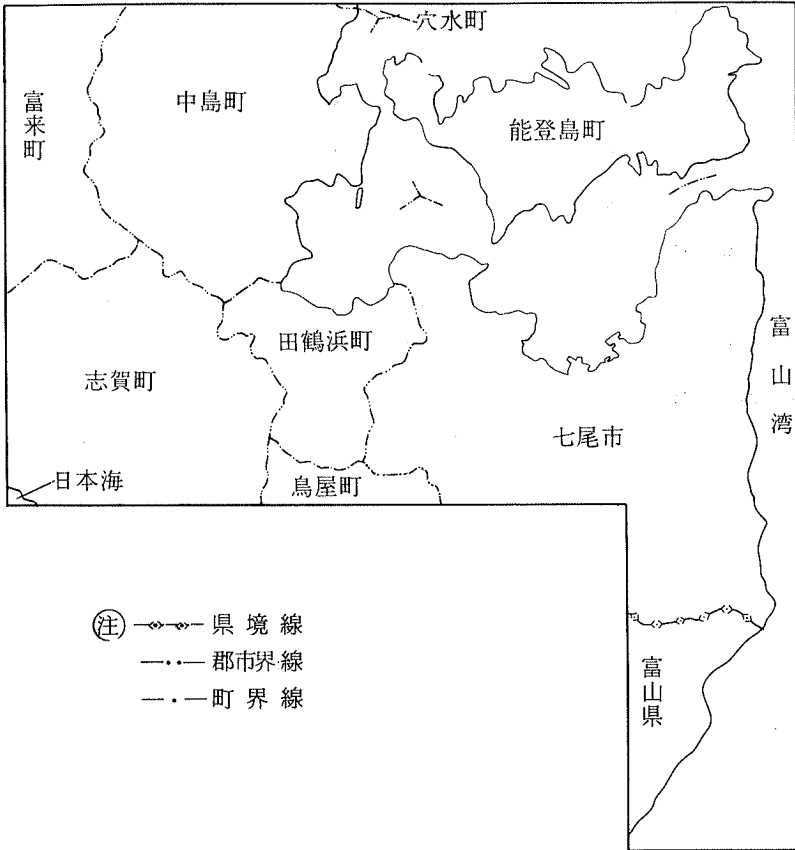
2 行政区画

当該図幅の県内行政区画は，七尾市，穴水町，中島町，能登島町，田鶴浜町，鳥屋町，富来町及び志賀町の1市7町である。（第1図参照）

3 面 積

本調査の対象面積は，約 409 km^2 であり，その市町別内訳及び占有率は，第1表のとおりである。

第1図 行政区画



第1表 図幅内市町面積

区 市 町 分 名	図幅内面積		市町全面積 B (K㎡)	占有率 A/B (%)
	面積 A (K㎡)	構成 (%)		
七尾市	126.70	30.95	144.70	87.56
穴水町	0.01	-	182.96	-
中島町	82.76	20.22	98.88	83.70
能登島町	47.46	11.60	47.46	100.00
田鶴浜町	29.94	7.32	29.94	100.00
鳥屋町	10.36	2.53	26.58	38.98
富来町	34.42	8.41	124.20	27.71
志賀町	77.66	18.97	122.54	63.38
計	409.31	100.00	777.26	52.66

資料：建設省国土地理院「昭和57年全国都道府県市区町村別面積調」（昭和57年10月1日現在）による。

ただし、図幅内面積は、石川県農林水産部耕地整備課調査による。

Ⅱ 人口および世帯数

本調査地域内市町の人口および世帯数は、昭和55年国勢調査によれば、120,983人、31,664世帯であり、おおむね県計の10分の1程度を占めている。

これを昭和50年のものと比較すると、県全体では、人口で約5パーセント（49,432人）、世帯数で約11パーセント（31,888世帯）の増加となっているのに対し、当該市町内では、それぞれ約1パーセント（677人）の減、約3パーセント（1,063世帯）の増という数字を示している。また、各市町別にみると、第2表に示すとおりで、人口では、七尾市だけが増加しており、その他7町ではほぼ減少している。世帯数では、能登島町、穴水町を除く1市5町が増加ないし横ばいの状態である。

第 2 表 人口および世帯数

区分 市町名	昭和 50 年				昭和 55 年				増 減				人口伸 び率 B/A	世伸 び 率 b/a
	人 口		世(a) 帯 数	世(b) 帯 数	人 口		世(b) 帯 数	世 帯 数	人 口		世 帯 数			
	男	女			計(A)	男			女	計(B)				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計					
七尾市	23,542	25,951	49,493	12,921	24,095	26,299	50,394	13,877	553	348	901	956	1.02	1.07
穴水町	6,944	7,720	14,664	3,912	6,666	7,378	14,044	3,875	△ 278	△ 342	△ 620	△ 37	0.96	0.99
中島町	4,482	4,875	9,357	2,247	4,352	4,734	9,086	2,248	△ 130	△ 141	△ 271	1	0.97	1.00
能登島 町	1,976	2,163	4,139	973	1,880	2,042	3,922	949	△ 96	△ 121	△ 217	△ 24	0.95	0.98
田鶴浜 町	3,138	3,440	6,578	1,581	3,147	3,396	6,543	1,587	9	△ 44	△ 35	6	0.99	1.00
鳥屋町	3,145	3,363	6,508	1,540	3,053	3,305	6,358	1,563	△ 92	△ 58	△ 150	23	0.98	1.01
富来町	6,441	7,073	13,514	3,269	6,287	6,954	13,241	3,276	△ 154	△ 119	△ 273	7	0.98	1.00
志賀町	8,357	9,050	17,407	4,158	8,372	9,023	17,395	4,289	15	△ 27	△ 12	131	1.00	1.03
区内 地域計	58,025	63,635	121,660	30,601	57,852	63,131	120,983	31,664	△ 173	△ 504	△ 677	1,063	0.99	1.03
県 計	518,594	551,278	1,069,872	290,183	542,782	576,522	1,119,304	322,071	24,188	25,244	49,432	31,888	1.05	1.11

資料：「昭和 50 年国勢調査」「昭和 55 年国勢調査」による。

Ⅲ 地域の特性

1 自然的条件

(1) 地 勢

当該調査地域は、能登半島のほぼ中央部に位置し、海拔高度 200 m 以下のなだらかな能登丘陵（中能登丘陵、能登島）が大部分を占める典型的な丘陵地帯である。

能登丘陵は、雑木林・松林・耕地等で成っており、平野は、七尾市の一部と田鶴浜町付近に見られるだけである。低所の一部には、中期洪積世の堆積物がやや広く分布するが、大部分は、新第三紀の安山岩類と堆積岩類とから構成されている。海岸線は、日本海に直面する外浦海岸と富山湾に面する内浦海岸に大別され、外浦海岸では浸食が著しく、急崖が発達しており、内浦海岸では中央に能登島を残す七尾湾の深い湾入があり、ともに屈曲に富む岩石海岸が主体で、海岸段丘が発達しており、風景絶佳である。

(2) 気 象

本調査地域は、年平均気温が 13℃～14℃で、本県の中でも温和な気候に属し、平均最深積雪量も 50cm 以下と少ない。

また、第 3 表に示すとおり、年間を通じて降水量が多く、夏季はむし暑い。

第 3 表 気 象 表

金沢地方気象台

要 素	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
平均気温℃	2.6	2.8	5.7	11.5	16.5	20.4	24.8
降水量 mm	326.7	199.4	172.1	153.4	149.3	200.5	244.3
日照時間 h	62.6	88.5	142.9	189.0	209.9	168.8	183.1
要 素	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	全 年	
平均気温℃	26.2	21.9	15.8	10.6	5.7	13.7	
降水量 mm	171.2	267.0	214.3	220.0	344.0	2,662.1	
日照時間 h	236.6	156.2	151.6	122.0	70.0	1,781.2	

輪島測候所

要素	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
平均気温℃	2.5	2.4	5.0	10.2	15.0	19.1	23.6
降水量mm	281.2	165.6	148.0	139.1	120.1	165.0	218.0
日照時間h	49.8	75.3	145.6	203.4	229.6	192.3	194.3
要素	8月	9月	10月	11月	12月	全年	
平均気温℃	25.0	20.9	15.1	10.1	5.5	12.9	
降水量mm	149.1	270.5	189.9	214.7	320.8	2,382.0	
日照時間h	246.4	162.5	153.7	107.5	60.6	1,821.0	

資料：金沢地方気象台及び輪島測候所の1941～1970年の30年間の平均値による。

(3) 動物・植生

イ. 動物

本調査地域は、人口密度が特に高いというわけではないが、森林の開発が進んでいて、大型哺乳類の分布は見られない。しかし、ホンダヌキ、テン、イタチ、トウホクノウサギ、ネズミ等の中小型哺乳類は広く分布している。

鳥類としては、この地域が穏やかな地形であり、植生がアカマツ林、コナラ林などの二次林が大部分であることから、ホオジロ、シジュウカラ、カケス等が繁殖しているが、種類はそれほど多くはない。繁殖期よりもむしろ越冬期や春秋の移動期に、鳥類の生息環境として重要な役割を果たしていると考えられる。

参考資料：「石川の動植物」（昭和56年3月）

ロ. 植物

本地域は、典型的な丘陵地帯で、コナラを主体にした二次林でおおわれているが、アカマツ、スギ、アテの植林地も多く、最近はクリなどの果樹も植栽されている。この地域は、本来は常緑広葉樹林域に含まれるのであるが、前述のように二次林や植林地が多く、本来の常緑広葉樹林は、神社

などの社叢林として僅かにその姿をとどめているにすぎない。

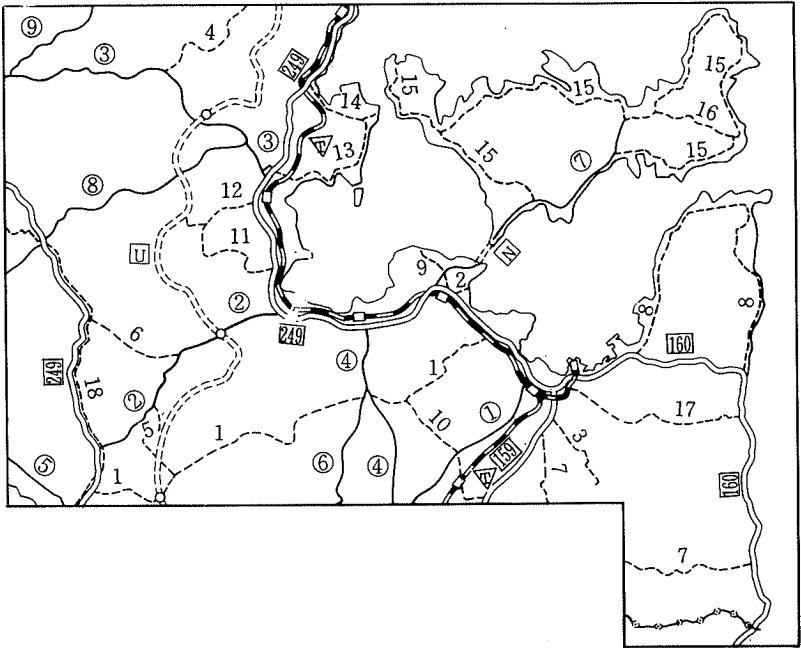
参考資料：「石川の動植物」（昭和56年3月）

2 社会経済的条件

能登半島は、近来、観光石川の中心として注目されており、この地域は、加賀と奥能登を結ぶ中枢地である。また、七尾市は観光面だけでなく、産業・経済においてもまさしく能登の要である。鉄道は、国鉄七尾線が走っており、道路は、羽咋市・七尾市と奥能登を結ぶ国道249号、七尾市と富山県氷見市を結ぶ国道160号、羽咋市と七尾市を結ぶ国道159号が走っている。さらに能登有料道路が石川県を一直線に結ぶ新しい力として走っている。主要地方道としては、七尾－羽咋線、田鶴浜－堀松線、富来－中島線、氷見－田鶴浜線、志賀－富来線、志賀－田鶴浜線、七尾－能登島公園線、福浦港－中島線、輪島－富来線が、一般県道としては、末吉－七尾線、石崎港線、城山線、河内－藤瀬線、羽咋－田鶴浜線、松木－代田線、花園－藤野線、庵－鶴浦－大田新線、和倉－和倉停車場線、池崎－徳田線、豊田－笠師保停車場線、土川－浜田線、長浦－中島線、長浦－小牧線、田尻－祖母浦－半浦線、野崎－向田線、百海－七尾線、羽咋－巖門自転車道線が走っている。

また、七尾市と能登島を結ぶ能登島大橋が昭和57年に開通し、地域住民の生活道路としても、能登半島の観光資源としてもさらに期待されている。

第2図 道路図



- | | | | | | | | |
|---------|---|-----|----------|--------|-----|-----------|-------|
| 国 | 鉄 | ▽ | 国鉄七尾線 | 県 | 道 | 1. | 末吉七尾線 |
| 国 | 道 | 159 | 国道159号 | (一般県道) | 2. | 石崎港線 | |
| | | 160 | 国道160号 | | 3. | 城山線 | |
| | | 249 | 国道249号 | | 4. | 河内藤瀬線 | |
| 有料道路 | | ◇ | 能登有料道路 | | 5. | 羽作田鶴浜線 | |
| | | ◇ | 能登島大橋 | | 6. | 松木代田線 | |
| 県道 | | ① | 七尾羽作線 | | 7. | 花園藤野線 | |
| (主要地方道) | | ② | 田鶴浜堀松線 | | 8. | 庵鶴浦大田新線 | |
| | | ③ | 富来中島線 | | 9. | 和倉和倉停車場線 | |
| | | ④ | 氷見田鶴浜線 | | 10. | 池崎徳田線 | |
| | | ⑤ | 志賀富来線 | | 11. | 豊田笠師保停車場線 | |
| | | ⑥ | 志賀田鶴浜線 | | 12. | 土川浜田線 | |
| | | ⑦ | 七尾能登島公園線 | | 13. | 長浦中島線 | |
| | | ⑧ | 福浦港中島線 | | 14. | 長浦小牧線 | |
| | | ⑨ | 輪島富来線 | | 15. | 田尻祖母浦半ノ浦線 | |
| | | | | | 16. | 野崎向田線 | |
| | | | | | 17. | 百海七尾線 | |
| | | | | | 18. | 羽作巖門自転車道線 | |

3 就業構造

本調査地域内市町の昭和55年における就業人口は、65,473人（分類不能を含む）で、第三次産業30,003人（約45.8パーセント）、第二次産業21,221人（約32.4パーセント）、第一次産業14,209人（約21.7パーセント）の順で構成されている。これを県全体の数字と比較すると、構成順は同様であるが、構成比をみると、第一次産業が大きくなっており、第二次はほぼ同様、第三次産業は小さくなっている。

また、市町別にみると、第4表のとおりで、七尾市だけが第三次産業の構成比で県全体より高くなっているが、他の7町では逆に第一次産業の構成比が高くなっている。

第4表 産業別人口（満15歳以上）

区 市 町 別	総 数 1)	第 一 次 産 業			第 二 次 産 業			第 三 次 産 業				構 成 比 (%)			備 考		
		農 業	林 業	水産業	計	鉱 業	建 設 業	製 造 業	計	小 売 業 卸 売 業	ホ テ ル 業	そ の 他	計	第 一 次		第 二 次	第 三 次
七尾市	26,598	2,609	38	558	3,205	18	2,387	5,521	7,926	6,102	5,949	3,407	15,458	12.0	29.8	58.1	
穴水町	7,583	2,332	98	156	2,586	8	1,066	905	1,979	1,040	1,139	833	3,012	34.1	26.1	39.7	
中島町	5,124	1,232	57	54	1,343	3	662	1,157	1,822	568	841	544	1,953	26.2	35.6	38.1	
能登島町	2,245	939	5	223	1,167	-	214	304	518	111	264	184	559	52.0	23.1	24.9	
田鶴浜町	3,535	664	7	11	682	8	293	1,183	1,484	417	536	412	1,365	19.3	42.0	38.6	
鳥屋町	3,652	555	4	2	561	9	175	1,695	1,879	399	468	341	1,208	15.4	51.5	33.1	
富栄町	7,100	1,930	30	460	2,420	10	458	1,173	1,641	748	981	1,308	3,037	34.1	23.1	42.8	
志賀町	9,636	2,112	33	100	2,245	6	1,007	2,959	3,972	1,134	1,359	918	3,411	23.3	41.2	35.4	
計	65,473	12,373	272	1,564	14,209	62	6,262	14,897	21,221	10,519	11,537	7,947	30,003	21.7	32.4	45.8	
県 計	567,694	54,803	1,350	6,449	62,602	394	53,025	140,248	193,667	123,171	113,322	74,676	311,169	11.0	34.1	54.8	

1) 「分類不能」の産業を含む。

資料：「昭和55年国勢調査」による。

Ⅳ 主要産業の概要

1 農 業

本調査地域内市町における農業の概要は、第5表に示すとおりで、農家戸数が13,851戸、耕地面積が10,876 haとどちらも県計の5分の1程度を占めている。専業農家数の割合が約4.9パーセント、耕地面積に占める田割合が約79.5パーセントと県全体の数字とは若干上下しているが、これは本県における農業の特徴である兼業・稲作農家の形態を同様に示しているものである。

第5表 農業の概要

区分 市町名	農家戸数(戸)			耕地面積(ha)			
	専業	兼業	合計	田	畑	合計	田割合(%)
七尾市	119	3,303	3,422	1,930	229	2,160	89.4
穴水町	136	2,035	2,171	1,320	680	2,000	66.0
中島町	58	1,505	1,563	1,000	124	1,130	88.5
能登島町	31	724	755	564	191	755	74.7
田鶴浜町	35	817	852	597	35	632	94.5
鳥屋町	55	739	794	566	73	639	88.6
富来町	129	1,711	1,840	948	417	1,370	69.2
志賀町	118	2,336	2,454	1,720	467	2,190	78.5
計	681	13,170	13,851	8,645	2,216	10,876	79.5
県計	2,839	59,259	62,098	45,700	10,000	55,700	82.0

資料：昭和56～57年「石川農林水産統計年報」による。

(注) 耕地面積はラウンドされた数値を使用しているため、各数値の積上げ値と合計が一致しない場合がある。

2 工 業

本県における昭和56年の工業状況は、総事業所数が15,636ヶ所、従業者数が133,197人、製造品出荷額が150,560,078万円である。

本調査地域内市町においては、第6表に示すとおり、事業所数1,638ヶ所、従業者数14,071人、製造品出荷額12,164,791万円で、おおむね県計の数字の1割程度である。

主たる工業としては、県全体では一般機械業、繊維工業、食料品業であるがこの地域では繊維工業、電気機械業などが中心である。

第 6 表 工業の概要

区 市 町 名	事業所数 (ヶ所)		従業者数 (人)						製造品出荷額 (万円)	
			従業者		家族従業者		計			
			常用労働者		男			女		
			男	女	男	女		男		女
七尾市	509		2,334	2,732	396	313	5,775	6,696,390		
穴水町	72		185	630	53	39	907	625,184		
中島町	85		182	502	69	57	810	449,032		
能登島町	47		16	172	47	44	279	48,402		
田鶴浜町	197		238	355	206	150	949	452,085		
鳥屋町	325		395	720	282	172	1,569	1,074,690		
高来町	73		243	806	56	40	1,145	875,538		
志賀町	330		688	1,379	293	277	2,637	1,943,470		
計	1,638		4,281	7,296	1,402	1,092	14,071	12,164,791		
県計	15,636		58,576	51,813	12,824	9,984	133,197	150,560,078		

資料：昭和56年「工業統計」による。

3 商 業

本県の昭和57年における商業状況は、卸・小売業総商店数 23,338 店，従業者数 106,817 人，年間商品販売額 398,926,049 万円となっている。

本調査地域内市町では，第7表に示すとおりであるが，県計との構成比をみると，商店数・従業者数で約10パーセント前後，年間商品販売額では約5パーセントを占めている程度である。

当地域を含め，能登地方の産業等の振興が叫ばれて久しいが，未だ県都金沢市を中心とした加賀地域との較差は大きい。しかしながら，最近の観光面の台頭や時代的な要請などにより，こうした産業経済の面においても能登地方が見直しをされるべき時期に来ているとも言えよう。

第 7 表 商業の概要

区分 市町名	卸・小売業				卸売業				小売業			
	商店数		従業者数		年間商品販売額		商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	
	実数	構成比 (県計100)	実数	構成比 (県計100)	実数	構成比 (県計100)						
							店	人	酒	人		
七尾市	1,346	5.8	5,763	5.4	14,224,167	3.6	244	2,027	9,005,642	1,102	3,736	5,218,525
穴水町	318	1.4	993	0.9	2,501,990	0.6	30	194	1,475,571	288	799	1,026,419
中島町	170	0.7	479	0.4	399,424	0.1	7	33	49,657	163	446	349,767
能登島町	65	0.3	127	0.1	99,981	-	3	8	3,273	62	119	96,708
田鶴浜町	120	0.5	315	0.3	366,062	0.1	11	57	125,039	109	258	241,023
鳥屋町	116	0.5	356	0.3	903,162	0.2	20	94	681,914	96	262	221,248
富来町	248	1.1	609	0.6	596,576	0.1	8	26	33,279	240	583	563,297
志賀町	337	1.4	953	0.9	1,164,253	0.3	23	92	232,136	314	861	932,117
計	2,720	11.7	9,595	9.0	20,255,615	5.1	346	2,531	11,606,511	2,374	7,064	8,649,104
県計	23,338	100.0	106,817	100.0	398,926,049	100.0	4,856	42,105	303,800,871	18,482	64,712	95,125,178

資料：昭和57年「商業統計」による。

各 論

I 地形分類図

1 地形概説

5万分の1図幅「七尾」「小口瀬戸」「蛇が島(石川県分)」に含まれる区域は、能登半島の頸部に位置し、海拔高度300 m以下の丘陵性山地ないし丘陵地が大部分を占める地域である。

この地域は、地形的に、七尾市街をのせる邑知平野、それをはさんで西側の鳳至山地及び中能登丘陵からなる地域、東側の石動・宝達山地、それらとせまい海域で隔てられた能登島丘陵地とに大別される。さらに海岸部に沿っては、各所に海成段丘と小規模な臨海平野の発達が見られ、その主なものの分布と名称は地形区分図に示される。なお、この地区の南西端に僅かに分布する福野平野と高浜砂丘は、南接する「氷見」図幅内によく発達するものの一部である。

図幅内の河川は、いずれも流程が短かく、流域面積もせまい。このうち18河川が2級河川に指定されており、主なものは、富来川、熊木川、日用川、二宮川、御椀川、米町川、安津見川、崎山川などである。

2 地形各説

(1) 山地・丘陵地

先述のように、この地区の大半を占めるものは丘陵地及び丘陵性の山地で、それらは、石動・宝達山地、鳳至山地、中能登丘陵、能登島の4地形区に区分される。

石動・宝達山地は、区域東部にあつてほぼ南北方向に発達する。その南部では高度300 mを越す(最高420 m余)が、北に向つて漸次高さを減じ、崎山半島北部では高度100m未満の丘陵地となる。海岸が迫っているため、低山性にも拘わらず河川の下刻が激しく、30°以上の急傾斜面が広く発達する。著名な山として伊樹山(252 m)がある。本山地を構成する地質は主として中新世中期以降の堆積岩であるが、南部には中新世前期の安山岩も少なからず露出する。この地区の河川は、南半部では山地を横断して東あるいは西に

流下するが、北の崎山半島部では、崎山川が山地の伸びの方向即ち南から北に向って山地を縦断して流れている。この著しい対照性は、南北両地区の地質構造のちがいを北部では南北性の走向あるいは褶曲軸を示すのに対し、南部では東西性のそれを呈するを密接に反映しているものと思われる。

鳳至山地は、北方の門前・輪島地区から本七尾図幅北部にかけて分布する高度約 400 m を最高とする小起伏山地であるが、この図幅内では虫ヶ峰 (296 m) を最高とする。地形はかなり急峻で、傾斜度 20° 以上の部分が卓越し、 30° 以上の場合も少なくない。本山地は、主として中新統の安山岩質岩石 (安山岩質火砕岩を主、一部に溶岩を含む) から構成されている。

中能登丘陵は、鳳至山地から漸移するもので、七尾図幅の大部を占める。225 m 点を最高とし、遍照岳 (147 m) や赤蔵山 (179 m) を含む一般に高度 200 m 未満の低平な丘陵地である。同丘陵を構成する地質は、鳳至山地と同様の中新統の安山岩類と、それを不整合に覆う中新世中期以降の堆積岩類である。本丘陵地では、後述の能登島の場合と同様に、地質と地形との対応即ち地質のちがいによる地形のちがいが顕著である。この地区では、高度 100 m 以上の地域はほぼ例外なく安山岩類から構成され、斜面傾斜も 20° 以上が卓越する。ただし、稜線部に沿う山頂緩斜面の発達は少なからず認められこの点は鳳至山地の場合と異なっている。この安山岩地域に対し、堆積岩類からなる地域は、高度は 100 m に達せず、かつ $8 \sim 20^{\circ}$ の緩傾斜部の分布が広い。

能登島は四村塚山 (197 m) を最高峰とする低平な丘陵地であるが、向田一久美、無関一ノ浦をそれぞれ結ぶほぼ南北の線を境として、地形的に、東部、中央部、西部の三地区に細分される。東部地区は、海拔高度 100 m 未満、谷の発達が密で、一般に尾根がせまく、谷壁が急である。地質も中、西部地区とは異なり、主として新第三系の泥質岩からなっている。これに対し、中央地区は中新統安山岩類からなり、100 m 以上の高所の分布が広く、尾根筋には巾広い山頂緩斜面の発達が良くみられる。西部地区は中央部と同様の

安山岩類からなるが、高度は50 m未満で、後述のように中位段丘の発達する地域である。

(2) 台地・段丘

能登半島一般の例にもれず、本図幅域でもほぼ全般にわたって海成段丘の分布が認められ、かつ、それらは数段に及んで発達するのをふつうとする。例外はあるが一般に、より高位の段丘は開析が進み、段丘面の保存が悪いのに対し、より低位の段丘は、段丘面の広がりや平坦の度合いが大きく、また段丘面と段丘崖や開析谷との境界もはっきりしている。本図では、この低位の段丘を中位段丘として示した。中位段丘が上、下2段認められる場合には、上位中位段丘、下位中位段丘として細分した。この地域では多くの場合がそうである。海成の下位段丘（完新世段丘）は能登島などに認められるが、比高も広がりも小さく、図には示されていない。なお、本区域の高位の段丘の一部には、段丘面の広がりも平坦度もかなり大きいものがあるが、それらは山頂緩斜面として図示してある。

海成の中位段丘は、日本海、富山湾、七尾湾の外内海を問わずその沿岸各所に分布がみられ、旧汀線高度は20～50 m内外を示す。日本海に直接臨む海成段丘は、七尾図幅南西隅にみられる。これは高浜から隣接図幅の福浦にかけて発達する志賀浦段丘の一部で、旧汀線高度25～30 m、開析谷の発達が軽微で、原面が広く残され、段丘崖の保存も良好である。安山岩質岩類を基盤とし、砂質堆積物をのせるが、段丘堆積部は北に向って薄化しないし欠如する傾向にある。富山湾に面しては、虻ガ島図幅から小口瀬戸図幅最南部にかけて、即ち大泊から佐々波にかけての沿岸、崎山半島先端地区、能登島東端部に比較的広く分布する。これらの地区では上位の段丘面の発達が著しい。北、西、南の七尾の諸湾に面した所では、和倉-津向地区、田鶴浜、長浦地区などにやや広い分布がみられるが、無関-半ノ浦以西の能登島西部地区で最も顕著なまとまりを示す。そこでは旧汀線高度40～50 m及び15～20 mの2段の海成段丘がみられ、また確認を欠く場合が多いが、段丘堆

積物の厚さは全般に薄いとみられる。なお、この図幅域全体を通じて、たとえ砂礫段丘とした場合でも、段丘堆積物の厚さが10 mに達する例は少ない。

河成段丘は、七尾市街西南方の徳田地区（徳田段丘）、及び志賀町仏木地区に顕著な発達が見られる。特に後者は中能登丘陵内の小山間盆地状の地形を呈する地域で、そこでは大別して2段の区別が容易である。七尾市街東南方の矢田、古府地区の台地は、旧扇状地の開析されたものである。熊木川流域の西谷内地区、安津見川沿いの安津見地区には、小規模ながら見事な2段の段丘が見られる。なお、河成段丘の中位、下位の区分は、それぞれの地域毎に相対的なものであり、海成段丘のそれらと対比されるものではない。

(3) 低地

この分類図では、低地を扇状地、三角洲（及び海岸平野）、谷底平野（及び氾濫原）、埋立地・干拓地、砂丘に五大別し、さらに汀線附近については、平坦な裸岩地域を磯、砂礫でおおわれた平坦地を浜として区別した。

本地域では広大な低地はみられず、七尾図幅南東部の邑知平野（の一部）が最大の広がりを示す。邑知平野は、北西側の中能登丘陵と南東側の石動・宝達山地の間を占めて、羽咋から七尾にかけて北東方向にのびるもので、ここではその北東部が分布する。平野の南東部は、石動・宝達山地からのいくつかの小河川により形成された複合扇状地からなる。七尾市街をのせる地域は泥質堆積物を主とする三角洲平野である。

邑知平野につぐものとして、七尾西湾の中島地区及び田鶴浜地区の臨海平野と、それにつづく谷底平野からなる低地がある。この両臨海平野は、熊木川及び二宮川の河口部に発達した三角洲であり、両河川の規模が相対的に大きいことが内湾環境と相まってその形成を助長したとみられる。七尾図幅南西隅の福野平野は、砂丘（高浜砂丘）により海と隔てられた潟が逐次埋められて形成された潟埋積平野である。

谷底平野はいずれも小規模であるが、中能登丘陵地内に良く発達をみる。砂質ないし礫質の堆積物からなる。扇状地は、既述の邑知平野に発達するも

の以外は、極めて小規模なものが谷底平野の所々にみられるにすぎない。

高浜砂丘は、羽咋市から高浜にかけてつらなり、巾1 Km余、最高点48 m、殆んどは被覆砂丘からなるものであるが、本図幅内にはその最北端のみが含まれ、高浜市街をのせている。

埋立地は七尾南湾の南岸及び南東岸に沿って、即ち七尾市臨海部の各所にみられるほか、能登島東海岸にも小規模なものがある。干拓地としては規模も小さく、時代的にも古いものであるが、七尾市石崎地区にみられる。

(4) そ の 他

地すべり地は、石動・宝達山地の中で江泊から佐々波にかけての山地の各所に分布しており、一部はごく最近にも滑動している。それ以外の地区では、地すべり地、崩壊地ともにあげるべきほどのものはない。

埋立地を除く人工改変地としては、学校、建築物、自動車道関係などの用地としての改変や、土砂、珪藻土などの採取(石)場などが丘陵地や台地の一部に散在的にみられるが、規模はいずれも小さい。

主 要 参 考 文 献 (年代順)

今井功(1965), 5万分の1地質図幅説明書「小口瀬戸」及び同説明書, 地質調査所

粕野義夫(編)(1965), 能登半島の地質 (7万5千分の1地質図及び同説明書), 石川県発行「能登半島学術調査書」, P. 1-84及び付図

今井功・坂本享・野沢保(1966), 邑知瀨・蛇ガ島地域の地質, 地域地質研究報告, 5万分の1図幅及び同説明書, 地質調査所

北陸第四紀研究グループ(1967), 能登半島七尾周辺の第四系, 一特に奥原層(海成洪積統)について-, 地質雑, 73-11, 495-510

山田一雄(1974), 土地分類図(地形分類図)(石川県), 20万分の1, 経済企画庁総合開発局

太田陽子・平川一臣(1979), 能登半島の海成段丘とその変形,

地理評, 52-4, 169~189

(山田 一 雄)

Ⅱ 表層地質図

1 概 説

(1) 地質分布の概要

5万分の1「小口瀬戸」図幅及び「虻ガ島」図幅(石川県分)の範囲内に分布する地層・岩石の地質学的(層位学的)区分については、5万分の1地質図幅「小口瀬戸」(今井, 1965)及び「虻ガ島」(今井・坂本・野沢, 1966)に、詳細な記述と図示がなされている。5万分の1「七尾」図幅内の各地区については、既往に相当数の学術論文や調査報告が公刊されているが、これらを取りまとめたものとして、7万5千分の1地質図(紮野, 1965)、10万分の1地質図(紮野, 1977)、及び10万分の1地盤図(石川県地盤図編集委員会, 1982)などがある。今回の調査に際して一部地区の再調査を実施し、その結果を加えて表層地質図に示した。

この地区の地表に分布するものは、大別して

- イ 第三紀中新世前期の火山性岩石
- ロ 中新世中期・後期及び鮮新世の堆積岩
- ハ 第四紀更新世及び完新世の未固結堆積物

の3者から成る。地形との関連で見れば、イとロは一部の山地と丘陵地の全域を占めて広く分布し、ハは主として面積的に狭い台地と平野にのみ分布が限られる。

(2) 地質構造

この地区の丘陵及び山地を構成する火山性岩石及び第三紀堆積岩類にみられる地質構造は、七尾市街地をのせる七尾平野と能登島中部の向田とを結ぶ線を境として、その西側と東側とでは著しい対照を示している。七尾-向田以西地区では、中新世前期の火山岩類の凹所を埋積するかたちで堆積した地層は、一般に 10° 以下の緩傾斜を示し、一部にゆるやかな波曲構造がみられるほかは、地質図上に表現される規模の延長をもつ断層もきわめて少ないこ

とで特徴づけられる。

これに対して、七尾以東、とくに崎山半島とその南部の地区では、東西性あるいは南北性の断層の発達が見られ、崎山半島に広く分布する石灰質シルト岩層（崎山層）とその下位の泥岩層は、南北性の軸をもつ背斜及び向斜の構造を示している。垂直変位量の大きな断層としては、地区の南東端部を東西に横切って、東浜南方から小川内へ続き、さらに西方（氷見図幅内）に延長する断層（コロサ断層）と、崎山半島を縦断する伊掛山断層とがあげられる。後者は、崎山層の一部に著しい変位を与え、傾斜 70° をこえる部分もある。

(3) 表層地質の区分

この地区に広く分布する第三紀の堆積岩ならびに第四紀更新世の地層の、層序学的区分や地層名については、既刊の5万分の1地質図幅（今井, 1965）及び今井・坂本・野沢, 1966）ならびに10万分の1地質図（粕野, 1977）に詳述されているので、ここでは煩雑をさけるために、記述を省略する。表層地質図では、上述の文献に用いられている地層区分を準用しつつ、地盤としての固さや強さなどの性状に基づいた実用的な区分単元を目指して、下記のように大別し図示した。各区分単元ごとの分布や性状については、各説で詳述する。

		(区 分 単 元)	(摘 要)
未 固 結 堆 積 物	}	埋 立 地	…… 人工的な海岸の埋立地
		泥	質…… 海岸平野の沖積層の一部
		砂	質…… 谷底平野及び海岸平野の沖積層の大部分
		砂 丘	砂…… 一部地区の海岸砂丘
		砂 ・ 礫	…… 河成段丘, 海成段丘及び旧扇状地
		砂 ・ 礫 ・ 泥	…… 更新世中期の地層（高階層 ^{たかしな} など）
		砂	岩…… 中新世の砂岩層（赤浦層など）
		泥岩 ・ シルト岩	…… 主に中新世の泥岩 ・ シルト岩（和倉層 ^{かさしほ} 、笠師保層など）

固 結 堆 積 岩	}	石灰質シルト岩……鮮新世の石灰質シルト岩（崎山層など）
		石灰質砂岩……中新世の含化石石灰質砂岩（七尾石灰質砂岩層など）
		凝灰岩……南東端部の大泊地区に分布する中新世の凝灰岩層
		砂岩・泥岩・礫岩……中新世前期～中期の地層
火 山 性 岩 石……中新世前期の安山岩質火砕岩及び溶岩		

2 各 説

(1) 未固結堆積物

- イ 埋立地（記号 rm）……七尾市街地前面の七尾南湾の各所と、七尾市石崎町北側地区及び能登島東端部などにあり、現在造成進行中のものもある。
- ロ 泥質（記号 m）……沖積層のうち、軟弱な粘土質層の厚さが10～15 mをこえる範囲で、七尾市街の中心部、石崎町地区、田鶴浜北部の川尻川・舟尾川の河口区域、大津川の下流域、中島町の日用川・熊木川の河口区域などにみられ、西南端の高浜町東方地区（旧福野潟）もこれに属する。地質柱状図には沿岸海底のものも若干含まれており、柱状図番号①, ②, ⑥, ⑦, ⑧, ⑪, ⑫, ⑭, ⑮, ⑱, ⑳, ㉑などにその性状が示されている。
- ハ 砂質（記号 s）……谷底平野及び海岸平野の大部分は未固結砂質を主とする沖積層から成る。海岸平野では、泥質層がおおむね10 mをこえない範囲は砂質で表示した（地質柱状図参照）。
- ニ 砂丘砂（記号 sd）……南西端高浜町の小区域に分布し、沖積世の海岸砂丘を成す。
- ホ 砂・礫（記号 sg）……更新世後期の海成段丘堆積物、更新世後期～末期の河成段丘堆積物、及び旧扇状地堆積物に属するとみられるものを、一括して砂・礫（sg）として表示した。従って堆積物の厚さや性状は場所によって異なること、及び、堆積物がきわめてうすい場合には省略してあることに留意されたい。

更新世後期の海成段丘堆積物は、和倉駅周辺、田鶴浜町などのせまい範囲に分布し、一部に泥質層を含む。富山湾に臨む大泊・東浜・黒崎地区等の小範囲に分布するものは、一部に礫を含む砂層から成り、一般に厚さ数m以下である。西南端高浜町西方の阿部屋地区では、明瞭な段丘地形がかなり広く発達しているが、堆積物は一般にうすく、主として砂層から成る。

内陸部の河成段丘地形を残す堆積物は、米町東方地区のやや広い範囲や、熊木川流域の各所にみられ、砂礫層又は礫層を主とする。七尾市街地南東側の万行・後島・飯川町などに分布するものは、更新世末期の扇状地と考えられ、砂層及び礫層から成る。

へ 砂・礫・泥（記号 sgm）……七尾市街地南西の地区に分布する更新世中期の高階層は、砂・泥層を主体として一部に礫層を含むものである。市街地南東側の佐野から古府町にかけて分布するものは、砂・泥・礫層から成り、ここでは高階層に相当するものとして扱っておく。

西部の大笹地区及び出雲地区に分布する更新統（志賀町層）は、主として砂層から成り、一部で数枚の泥層をはさみ、上述の高階層に相当するものと考えられる。

(2) 固結堆積岩

イ 砂岩（記号 ss）……七尾市街の西側に広く分布する砂岩層は、赤浦砂岩層とよばれ、斜交層理の著しい粗粒砂岩を主体とする。その形成年代は中新世中期であるが、固結度はきわめて低く、各所で土砂用に採掘されている。鳥屋町から田鶴浜にかけて分布するものもほぼ同様である。西方の堀松から米町にわたる範囲に分布する堀松砂岩層も、斜交層理を示す半固結の粗粒砂岩を主体とする。崎山半島の東部及び南部地区に分布する砂岩層の一部は固結度が高い。

ロ 泥岩・シルト岩（記号 ms）……主として中新世中～後期の泥質岩を、一括して表示したが、その岩質は場所によって若干の相異がある。大部分を占めるものは、無層理の泥岩層であるが、一部にみられる淡水成の泥岩

層（中島・三明地区の小範囲にみられる山戸田泥岩層）や、和倉地区及び能登島西部地区の珪藻質泥岩層なども一括してある。又、崎山半島西部や能登島東部地区のものはやや砂質で、シルト岩とよぶのが妥当である。

- ハ 石灰質シルト岩（記号 st）…… 微化石及び貝化石を多量に含む青緑色のシルト岩は、崎山半島の中央部を占めて広く分布し、固い石灰質層や石灰質団塊をはさむことがある。これに相当する鮮新世のシルト岩は、七尾市街地西方の小島地区（小島砂岩層）や、市街地の地下及び南湾沿岸部に分布するが、崎山地区のものに比べて固結度は低い。能登島東端の野崎周辺にも、崎山半島と同様なかなり固結した石灰質シルト岩が分布する。
- ニ 石灰質砂岩（記号 cas）…… 前述の赤浦砂岩層や堀松砂岩層の一部が、多量の石灰質化石を含有してやや固結した部分で、七尾市街西方の大杉崎・岩屋・細口などの小範囲や、西部の志賀町北吉田・出雲地区などに分布する。分布は狭いが、各種の化石を産するのでよく知られ、かつては含リン層として採掘の対象となった部分もある。
- ホ 凝灰岩（記号 tf）…… 地区内では、南東端の富山県境大泊地区のみに露出する。灰白色の細粒凝灰岩や砂質凝灰岩から成る。
- ヘ 砂岩・泥岩・礫岩（記号 al）…… 中新世前～中期の地層で、砂岩・泥岩の互層を主とし、一部で礫岩層の卓越する、岩相変化の著しい地層である。崎山半島南部にはかなり広く分布し、小川内南東地区、七尾城山地区、百海地区などではとくに礫岩層の発達が著しい。時として亜炭層を含むこともある。

能登島西部地区では、安山岩類を縁どるような形で本層がせまい範囲に分布する。西方の三明地区や、北部の熊木川流域の一部などにも本層の露出が見られる。

(3) 火山性岩石（記号 Ab）

この地区の広い範囲を占めて分布するのは、中新世前期に形成された火山性岩石である。その大部分は、安山岩質の凝灰角礫岩や火山角礫岩で、一部

に安山岩溶岩をはさむ。これらが変質あるいは著しい風化作用を受けている場合には、新鮮な場合にくらべて固さや強度が低下していることがあるので注意を要する。

主な参考文献（年代順）

今井功（1965），5万分の1地質図幅説明書「小口瀬戸」及び同説明書，地質調査所。

粕野義夫（編）（1965），能登半島の地質（7万5千分の1地質図及び同説明書），石川県発行「能登半島学術調査書」，P.1-84及び付図。

今井功・坂本亨・野沢保（1966），呂知瀨・虻が島地域の地質，地域地質研究報告，5万分の1図幅及び同説明書，地質調査所。

北陸農政局計画部（1977），石川県の水理地質と地下水。

粕野義夫（編）（1977），10万分の1石川県地質図及び同説明書，石川県発行「石川県の自然環境」第1分冊，地形・地質。

北陸農政局計画部（1980），呂知平野地区地盤沈下調査報告書及び付図。

石川県地盤図編集委員会（編）（1982），10万分の1石川県地盤図及び同解説書，北経調査研究報告，第66号。

建設省北陸技術事務所（監修）（1982），石川県平野部の地盤図集，北陸建設弘済会刊。

海上保安庁水路部（1982），5万分の1海底地質構造図「七尾湾」。

上記のほか，地質調査所坂本亨，盛谷智之の両氏からは，未公表資料について御教示を受けたことに対し感謝する。

（粕野義夫）

Ⅲ 土 壤 図

1 農 地

(1) 農地土壌の概要

この地域は能登半島の中央部に位置し、地形的特徴から、石動・宝達山地、邑知瀉低地、中能登丘陵及び能登島に区分することができる。以下、地域別に農地土壌の概要を略述する。

石動・宝達山地は、本図幅の東側の崎山半島で、新第三紀、中新生の各種堆積岩からなっている。この地域は、やや急峻な山地であるため、水田は崎山半島先端の鶴の浦町、富山県境の大泊及び東浜の海岸線の低地に点在しているほか、中小河川の谷間に小規模に分布し、いずれもグライ土からなっている。一方、畑は極めて少なく、褐色森林土が各地に小面積で点在している。

邑知瀉低地は、羽咋市の邑知瀉から七尾南湾に続く崎山半島の西側の低地で、この低地を流れる御抜川、大谷川等の河川の運ぶ土砂の堆積した河成沖積層からなっている。水田は、七尾市徳田町近辺の表層腐植層のある黒ボクグライ土を除いて、大部分はグライ土で占められている。畑は極めて少ない。

中能登丘陵は、本図幅の西側の七尾西湾を囲む比較的なだらかな丘陵地で、新第三紀の火山岩及び堆積岩からなっている。水田は、七尾湾に注ぐ熊木川、日用川及び二ノ宮川の流域と、七尾西湾の海岸線、日本海に面する富来川及び米町川の流域の沖積地に分布している。その土壌は、志賀町高浜の海岸沿いに分布する黄色土を除いて、大部分はグライ土である。畑は黄色土が丘陵各地に分布し、中島町五里峠などでは、農地造成により、牧草及び桑が栽培されている。また、志賀町高浜に砂丘未熟土が、志賀町倉垣に褐色森林土が分布している。

能登島は、第三紀の火山岩及び堆積岩類からなり、起伏の多い丘陵傾斜地には、黄色土の畑が分布し、桃が栽培されている。また、水田は、丘陵の谷

間及び海岸の沖積地に小面積分布し、その土壌は灰色低地土及びグライ土である。

(2) 農地土壌の細説

この地域に出現する農地土壌は、7土壌群、13土壌統群、20土壌統に分類できる。土壌統群ごとの出現傾向、土壌特性並びに土地利用について略述する。

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統
砂丘未熟土	砂 丘 未 熟 土	内 灘 統
黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	大川口統
黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	八木橋統
褐色森林土	細粒褐色森林土	貝原統
	中粗粒褐色森林土	裏谷統
黄色土	細粒黄色土	大原統 赤山統
	細粒黄色土，斑紋あり	蓼沼統
灰色低地土	細粒灰色低地土，灰色系	四倉統
	礫質灰色低地土，灰色系	国領統
グライ土	細粒強グライ土	富曾亀統 田川統 西山統 東浦統
		芝井統 滝尾統 琴浜統
		竜北統 幡野統 千年統

イ 砂丘未熟土

これに属する土壌統は、内灘統（Ucn）で、本図幅では志賀町高浜にわずかに分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は風積である。土壌の特性は粗砂土で、粘土及び腐植含量が極めて少なく、土壌理化学性は透水性が大、保水力が小さく、自然肥沃度が低い。しかし、有効土層が深く、耕耘も容易であるため、養水分が充分供給されれば、多くの作物の適地となる。畑としてタバコが栽培されている。

ロ 表層腐植質黒ボク土

これに属する土壌統は、大川口統（Okg）で、七尾市徳田新町に分布する。

母材は非固結火成岩で、堆積様式は風積である。表層0～50cmに腐植層があり、礫層はない。土性は全層粘質からなり、土色は表層が黒色、下層は黄褐色を呈し、斑紋はみられない。保肥力、保水力は中で、透水性が大である。畑として野菜が栽培されている。

ハ 腐植質黒ボクグライ土

これに属する土壌統は、八木橋統（Ygh）で、鳥屋町瀬戸に分布している。

母材は非固結火成岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層からなり、土性は粘質～強粘質で、グライ層が下層にみられる。土色は表層は黒色で、下層は青灰色を呈し、斑紋がみられる。保肥力、保水力は中で、透水性は小である。水田として利用されている。

ニ 細粒褐色森林土

これに属する土壌統は、貝原統（Kib）で、崎山半島に分布している。

母材は固結堆積岩で、堆積様式は残積である。表層腐植層がなく、礫層もない。土性は強粘質で、土色は全層黄褐色を呈し、斑紋はみられない。

保水力は大、透水性は小である。畑として野菜が栽培されている。

ホ 中粗粒褐色森林土

これに属する土壌統は、裏谷統(Urt)で、志賀町倉垣の丘陵に分布する。

母材は固結堆積岩で、堆積様式は残積である。表層腐植層はないが、礫が認められる。土性は砂質で、土色は全層黄褐色を呈し、斑紋はない。保肥力、保水力は小で、透水性は大である。畑として西瓜、タバコなどが栽培されている。

ヘ 細粒黄色土

これに属する土壌統は、大原統(Ohr)及び赤山統(Aky)で、中能登丘陵の各地及び能登島に分布している。

母材は固結火成岩で、堆積様式は残積である。表層腐植層がなく、礫層もない。土色は黄褐色を呈している。土壌反応は、大原統が弱酸性であるのに対し、赤山統は強酸性である。土性が強粘質でち密であるため、透水性が悪く、一時的に過乾、過湿になる恐れが大きい。能登島では、樹園地として桃が栽培され、また、中能登丘陵では、畑として桑、牧草などが栽培されている。

ト 細粒黄色土、斑紋あり

これに属する土壌統は、蓼沼統(Tdn)で、志賀町高浜の安部屋に分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層はなく、礫もない。土色は黄褐色を呈し、土性は強粘質からなる。構造はなく、斑紋があり、マンガン結核はない。保肥力、保水力は大で、湛水、透水性は小である。水田として利用されている。

チ 細粒灰色低地土、灰色系

これに属する土壌統は、四倉統(Ytk)で、能登島町無関付近に分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層がなく、礫層もない。土色は全層灰色を呈している。土性は強粘質からなり、構造及び斑紋があり、マンガン結核は存在しない。保肥力、保水力は大である。湛水透水性は中である。水田として利用されている。

リ 礫質灰色低地土，灰色系

これに属する土壌統は、国領統（Kok）で、中島町藤ノ瀬の熊木川流域に分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層がなく、礫層は0～30cm以下より出現し、有効土層は浅い。土性は粘質で、土色は灰色を呈し、斑紋はみられる。保肥力、保水力は小で、湛水透水性は大である。水田として利用されている。

ヌ 細粒強グライ土

これに属する土壌統は、富曽亀統（Fsk）、田川統（Tgw）、西山統（Nsh）及び東浦統（Hgs）で、中小河川の沖積地及び山間の谷地田等の低地に広く分布し、本図幅に占める割合が最も大きい。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層がなく、礫層もない。土性は、富曽亀統及び田川統は強粘質、西山統及び東浦統は粘質で、また、斑紋は、田川統及び東浦統は地表30cm以下に認められる。いずれの土壌統も全層又は作土直下よりグライ層があり、地下水位が高く、排水が悪いため、根系障害を受け易い。保肥力、保水力は大で、湛水透水性は小である。水田として利用されている。

ル 中粗粒強グライ土

これに属する土壌統は、芝井統（Shb）、滝尾統（Tko）及び琴浜統（Kot）である。このうち滝尾統は、七尾市邑知潟低地に広範囲に分布し、琴浜統は田鶴浜町、芝井統は志賀町高浜及び中島町筆染に分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層はなく、礫

層もない。土性は、芝井統及び滝尾統は壤質で、琴浜統は砂質である。また、滝尾統については、地表30cm以下に斑紋が認められる。いずれの土壌統も全層又は作土直下にグライ層が出現し、排水不良のため根系障害による養分吸収障害を受け易い。また、湛水透水性は小である。保肥力、保水力は、芝井統及び滝尾統は中で、琴浜統は小である。水田として利用されている。

ヲ 礫質強グライ土

これに属する土壌統は、竜北統（Ryu）で、中島町白浜及び七尾市国下町にわずかに分布している。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。全層又は作土直下からグライ層となり、地表下25～30cm以内より礫層が出現し、地下水位が高い。土性は粘質、土色は青灰色で、有効土層は浅い。保肥力、保水力は小で、湛水透水性は小である。水田として利用されている。

ワ 細粒グライ土

これに属する土壌統は、幡野統（Htn）及び千年統（Cht）で、幡野統は能登島町の箱名入江付近、千年統は鳥屋町に分布する。

母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。表層腐植層がなく、地表30～80cm以内にグライ層を有する。土性は、幡野統は強粘質、千年統は粘質で、土色は、表層が灰色、下層は青灰色を呈する。斑紋がみられ、マンガン結核はない。保肥力、保水力は大で、湛水透水性は小である。水田として利用されている。

（中 屋 滋 夫）

2 林 地

(1) 林地の概要

この調査地の南東部は、分岐した深い谷が形成されており、地形はかなり急峻で、一般的に土壌は良好である。

また、北部（七尾湾より西）においても、南東部ほどではないが、解析が

かなり進んでおり、尾根部分は全般に幅広いものの、斜面はかなり急である。土壌も比較的良好である。

その他の地域は、全般的にゆるやかな地形で、丘陵性を帯びている。特に南西部分、七尾市と田鶴浜町周辺部分等は非常になだらかな丘陵地形であり、土壌は不良である。

(2) 林地土壌細説

この調査地の林地に分布する土壌は、断面形態の特徴、土性、堆積様式などの相違により⑦土壌統群、⑰土壌統に分類される。

土 壌 統 群	土 壌 統
乾 性 褐 色 森 林 土 壌	矢 駄 1 統 (Yd-1) 長 浦 1 統 (Nu-1) 崎 山 1 統 (Sy-1) 高 畠 1 統 (Tb-1) 石 動 山 1 統 (Sd-1)
乾 性 褐 色 森 林 土 壌 (黄 褐 系)	花 見 月 1 統 (Hm-1) 和 倉 1 統 (Wk-1)
乾 性 褐 色 森 林 土 壌 (赤 褐 系)	(Br)
褐 色 森 林 土 壌	矢 駄 2 統 (Yd-2) 長 浦 2 統 (Nu-2) 崎 山 2 統 (Sy-2) 高 畠 2 統 (Tb-2) 石 動 山 2 統 (Sd-2)
褐 色 森 林 土 壌 (黄 褐 系)	花 見 月 2 統 (Hm-2) 和 倉 2 統 (Wk-2)
湿 性 褐 色 森 林 土 壌	芹 川 統 (Sk)
赤 色 土 壌	(R)

イ 乾性褐色森林土壌

この土壌は、山頂、尾根、尾根斜面などの乾燥しやすい場所に出現する。地形的にみれば、なだらかな丘陵地帯に多く出現した。

a 矢駄 1 統

母材は、火砕岩類が大半で、そのほかに、珪藻泥岩、砂岩等が分布する埴質土壌である。地形は、一般的に幅広い尾根を有し、斜面は凸型を呈する丘陵性の山地であるが、北部にはかなり急な斜面もみられる。

この尾根と尾根斜面に出現する土壌で、生産性は低い。スギの造林には向かないが、アテならある程度の生育が望まれる。

b 長浦 1 統

母材は、火砕岩類が主体で、一部に珪藻泥岩等もみられる埴質な土壌である。地形は、能登島の中部を除くと、起伏の非常に小さい丘陵地帯であり、この丘陵地の大部分をおおっている。

能登島中部では、幅広い尾根と尾根斜面に出現する。

ソヨゴ、ヒサカキ、マンサク、ヤマボウシ等の広葉樹のほか天然性のアカマツがみられる土壌は、堅果状構造が発達しており、堅密で堅いため、生産力は非常に低い。

c 崎山 1 統

母材は、石灰質砂岩、泥岩が主体で、一部に珪藻泥岩を含む。微砂混りの埴質な土壌が多い。里山地形を有する丘陵地帯であるため、現在のスギ林も以前は耕地であった所が多い(崎山半島)。このような箇所においては、スギの初期生長は比較的良好である。

尾根及び尾根斜面に出現する。

d 高島 1 統

母材は、砂岩、砂礫岩が主体で、一部には火砕岩類も含まれる。土壌は一般的に砂質がかっている。地形は解析が進んでおり、尾根及び尾根斜面に出現するが、その地域における分布割合は小さい。

林相は天然性の広葉樹林，アカマツ林が多い。

e 石動山1統

母材は，泥岩，砂，泥，礫岩の互層，火砕岩類等であり，土壌は埴質なものが多いが，一部には砂質なものも現われる。この土壌は尾根及び尾根斜面に出現するが，地形が急峻であるため，その地域における出現割合は小さい。

ロ 乾性褐色森林土壌（黄褐色系）

尾根及び尾根斜面など乾燥しやすい場所に出現するが，この土壌が分布する地域は丘陵地帯であるため，出現割合は大きい。

a 花見月1統

母材は，砂岩，砂礫泥岩が主体であるが，一部に石灰質砂岩を含む。凸型斜面を呈する高低差の小さい里山地帯である。凹地を除く大部分にこの土壌が出現する。砂質であるため，特に構造は発達していない。

ナラ，ヒサカキ，ソヨゴなどの広葉樹に，天然性のアカマツ，モミがみられる。生産力は極めて低い。

b 和倉1統

母材は，珪藻泥岩，火砕岩類，砂礫泥岩で，土壌は埴質である。

地形は，高低差の小さい傾斜の非常にゆるやかな丘陵地帯である。凹地を除いた大部分にこの土壌が出現するが，石崎町の北の部分には，A層欠除の土壌もみられる。

ヒサカキ，ソヨゴ，ナラなどの広葉樹のほか天然性のアカマツがみられる。生産力は極めて低い。

ハ 乾性褐色森林土壌（赤褐色系）

母材は火砕岩類が大部分であるが，珪藻泥岩，砂岩も一部みられる。

尾根部分及び丘陵地帯に出現する。土壌は埴質で固くしまっており，腐植の侵透は少ない。

ナラ，ソヨゴ，ヤマボウシ，ネジキ，ヒサカキなどの広葉樹に天然性の

アカマツ、モミなどがみられる。生産性は極めて低い。

ニ 褐色森林土壌

この土壌は、斜面の中腹部以下及び丘陵地にあつては凹地部分に出現する。

a 矢駄 2 統

母材は、火砕岩類が大部分であるが、一部には珪藻泥岩、砂岩もみられる。埴質な土壌である。

分布する地域は矢駄 1 統と同じであるが、地形的位置が異なる。すなわち、斜面中腹部から谷筋にかけて出現する。概してスギの造林に適するが、南西部の丘陵地帯にあつては、アテが適する。

b 長浦 2 統

母材は、火砕岩類が主体で、一部に珪藻泥岩等もみられる。概して丘陵地帯であるため、この丘陵地の凹地部分に出現する程度であるが、能登島中央部の比較的斜面の長い所にあつては、斜面下部から中腹部まで出現する。埴質な土壌であるが、概して土層は浅く、生産力はそれほど高くない。

c 崎山 2 統

石灰質砂岩、泥岩等を母材とする微砂まじりの埴質な土壌である。

斜面中腹部以下に出現する。生産力は中庸で、スギの造林に適する。

d 高島 2 統

砂岩、砂礫岩等を母材とする砂質土壌である。

分布地域は高島 1 統と同じ地域であるが、地形的には山腹斜面の大部分と谷筋に出現する。A層は厚く、腐埴は深くまで侵透している。スギの適地である。

e 石動山 2 統

火砕岩類、砂・礫・泥岩の互層、泥岩等が入り組んで基岩をなしており、土性は概して埴質であるが、一部には砂質もみられる。山腹斜面の

大部分と谷筋に出現する。スギの造林に適する。

ホ 褐色森林土壌（黄褐色）

この土壌が分布する地域は丘陵地帯であるため、谷筋などの凹地や、斜面下部に出現する。

a 花見月2統

砂岩、砂礫泥岩等を母材とする、概して砂質な土壌である。

凸型斜面を呈する里山地帯であるため、谷筋や斜面下部に出現する程度である。生産力はそれほど高くない。

b 和倉2統

珪藻泥岩、火砕岩類、砂礫泥岩を母材とする埴質な土壌である。

高低差の小さい、傾斜のゆるやかな丘陵地であるため、この土壌は凹地部分に出現する程度である。アテの造林が適当である。

ヘ 湿性褐色森林土壌

芹川統

調査地の南東部、石動山2統が分布する地域の深い谷筋に出現する。

崩積土壌であり、生産力は非常に高い。スギの1等地である。

ト 赤色土壌

火砕岩類を母材とする埴質な土壌で、尾根部分に出現する。ソヨゴ、ヒサカキ等が分布する表層の浅い堅くしまった土壌で、生産力は極めて低い。

（中野 徹夫）

Ⅳ 土地利用現況図

1 農 地

本地域は典型的な丘陵地帯であるが、森林開発が進んでいて、大規模な農地開発事業も幾つか行われている。

図幅内市町における農地の概要は、表Ⅳ-1のとおりであり、耕地率は約14.0パーセント、水田率は約79.5パーセントである。これを県全体の数字と比べると、耕地率(約13.3パーセント)が若干上回り、水田率(約82.0パーセント)は下回っている。

農地の大部分は水田であるが、その分布については、平野部のほとんどを水田が占めており、畑はその他の丘陵地帯に点在している。しかし、前述の様に農地開発事業が幾つか行われており、鳥屋町、志賀町、能登島町の一部にかなり大規模な畑がみられる。

2 林 地

丘陵地帯が多く分布する本地域は、大部分が森林で占められているが、一部についてはゴルフ場、放牧場などに利用されている。

また、本地域は森林開発が進んでおり、スギを中心に針葉樹の造林地も多い。

図幅内市町における林地の概要は、表Ⅳ-2のとおりであるが、特徴として、人工林率が約40.9パーセントと県全体の約32.7パーセントと比較して高いことが挙げられる。

図幅内地域を植生的にみると、七尾湾側の地域と能登島で針葉樹林が、志賀町で混交林が、その他の地域では広葉樹林がそれぞれ広く分布している。また、竹林も、七尾市を中心とした丘陵及び山地斜面に点在してみられる。

(山本 朗)

表 N-1 農地の概要

(単位：ha)

区 市 町 名	耕地面積	田	畑				
			計	普通畑	樹園地	牧草地	草地
七尾市	2,160	1,930	229	184	17	28	
穴水町	2,000	1,320	680	194	381	105	
中島町	1,130	1,000	124	65	47	12	
能登島町	755	564	191	168	19	4	
田鶴浜町	632	597	35	34	1	-	
鳥屋町	639	566	73	8	-	65	
富来町	1,370	948	417	383	7	27	
志賀町	2,190	1,720	467	353	114	-	
計	10,876	8,645	2,216	1,389	586	241	
県計	55,700	45,700	10,000	5,680	3,230	1,130	

資料：昭和56～57年「石川農林水産統計年報」による。

(注) 面積はラウンドされた数値を使用しているため、各数値の積上げ値と合計とが一致しない場合がある。

表Ⅳ-2 林地の概要

(単位：ha)

区 市町名	総森林面積	林野面積						人工林 率(%)	
		人工林		天然林		竹	その他		
		針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹				
						針葉樹	広葉樹		
七尾市	8,302	3,462	15	847	3,179	353	446	3,477	41.9
穴水町	13,653	6,024	87	1,636	5,747	22	137	6,111	44.8
中島町	7,529	3,228	13	682	3,535	15	56	3,241	43.0
能登島町	2,953	701	12	1,090	1,105	27	18	713	24.1
田鶴浜町	1,718	991	2	434	274	11	6	993	57.8
鳥屋町	1,368	452	3	178	712	10	13	455	33.3
富来町	9,246	3,869	45	1,336	3,720	71	205	3,914	42.3
志賀町	7,109	2,294	27	1,998	2,525	38	227	2,321	32.6
計	51,878	21,021	204	8,201	20,797	547	1,108	21,225	40.9
県計	253,396	81,111	1,772	19,260	140,159	2,226	6,753	82,883	32.7

資料：昭和57年「林業要覧」による。

(注) 面積には国有林野を含んでいない。

1984年3月 印刷発行

土地分類基本調査

七尾・小口瀬戸・虻ヶ島(石川県分)

編集発行 石川県農林水産部耕地整備課
金沢市広坂2丁目1番1号

印刷 北日本測量株式会社
金沢市浅野本町2丁目2番5号